

9. 油流出事故に係る国立公園事務所の活動概要

島名	月日	問題	公園の機動力	対処方法	結果	技術指導
サンクリストバル	2001年1月16日	ジェシカ号の座礁	所長および技術部門の職員	適宜国立公園の人材選定 国際社会への援助要請	油漏れ対策開始 油漏れ分野の外国人専門家要請	
サンクリストバル	2001年1月17日	油漏れ事故に対応できる人材不足	グアダルペ・リバー号、 公園保護官	油漏れ対策に必要な食糧、資 機材調達	燃料漏れ対策への対応	
サンクリストバル	2001年1月17日	サンクリストバル島内 の人材と支援不足	シレニアン号	油漏れに対処する科学者、公 園保護官、ボランティア、機 材の運搬	サンクリストバル島の石油漏れ対策へ人 材支援強化	
サンクリストバル	2001年1月18日	ベースライン欠如	ボート1隻、乗組員2名、 公園保護官2名	ダーウィン研究所のスタッフ と共にベースライン策定	沿岸および潮間帯の野生生物個体数調査	ダーウィン研究所
サンクリストバル	2001年1月19日	ベースライン欠如	ボート1隻、乗組員2名、 公園保護官2名	ロボス島でのベースライン策 定	島のアシカを数えた	ダーウィン研究所
サンクリストバル	2001年1月20日	ベースライン欠如	ボート1隻、乗組員2名、 公園保護官2名	サンタフェ島でのベースラ イン策定	鳥類とアシカの勘定、 国際機関のモニター	ダーウィン研究所
サンクリストバル	2001年1月20日 から現在まで	燃料の汚れを捜索	軽飛行機1機、乗組員2名、 公園保護官2名	燃料汚れの場所確認および搬 送	燃料汚れの位置図、被害予想	ダーウィン研究所
サンクリストバル	2001年1月20日 から1月28日まで	ジェシカ号内のIFO 抑制わずか	5隻の船舶、公園保護官80名	ジェシカ号周辺の汚れ制止と 分散作業	機械による原油汚れ回収
サンクリストバル	2001/1/22から現 在まで	影響を受けた野生生物 捜索及び沿岸地帯の油 汚染調査	公園保護官8名、 公園の車両1台	アシカ、海鳥の被害調査 発見と捕獲（必要に応じて）	洗浄のため22羽の海鳥を捕獲、内2羽 の翼は折れ、衰弱死した	IFAW, RSPCA, Sea Alarm, 他
サンタクルスとサ ンタフェ	2001年1月24日	IFOによる汚染箇所 の数量化	ボート1隻、乗組員2名、 専門家2名、職員1名	燃料汚染箇所検討	トルトゥーガ・ベイとサンタフェ島に見 られた残留IFOの清掃を奨励	NOAA, WSRSC
サンクリストバル	2001/1/25から現 在まで	野生動物救護に携わる 学際集団が調整を欠く 救護センターの欠如	公園保護官1名、海外の専門家集 団	野生動物救護活動の調整 動物救護センター設置案	学際救助作業班の報告 サンクリストバル島の野生生物リハビリ および洗浄センター構想	IFAW, RSPCA, Sea Alarm, その他
サンタクルス	2001年2月4日	オイルスピル後のモニ ター計画案	国立公園職員	ダーウィン研のモニター活動 と調整	オイルスピル後のモニター計画承認	ダーウィン研究所
サンタフェ	2001年1月21日 から22日まで	オイルスピル軽減	公園保護官14名 エスバニョーラ号（ロジ支援のため 契約ボート） 公園保護のゴムボート1隻 ボート・シーレイジャー11号	サンタフェ島の南東沿岸に中 和剤を使用 オイル・フェンス準備 湾に漂着したバンカーオイル 回収		
サンタフェ	2001年1月23日	オイルスピル軽減	ボート・マーベル号と12名が加勢 し、総勢26名が出動	オイル・フェンスを用意し、 島の湾に漂着したバンカーオ イルを収集した	15頭の若いアシカを処置（幼獣、若獣） フェンス設置	
サンタフェ	2001年1月24日	オイルスピル軽減	同様の人員が稼働	同上	7頭の若いアシカを処置 毛皮が著しく汚染されていた	
サンタフェ	2001年1月25日	オイルスピル軽減	ダーウィン研のゴムボート1艘 が加わる	油で汚れたアシカの洗浄 汚染地区のモニタリング	5頭の若いアシカを処置 毛皮が汚れていた	ダーウィン研究所
サンタフェ	2001年1月26日	オイルスピル軽減	職員6名 エスバニョーラ号（借上ボート） 国立公園のゴムボート1艘、 ボート・シーレイジャー11号	油で汚れたアシカの洗浄 汚染地区のモニタリング及 び同地区の清掃	2頭の若いアシカを処置 毛皮が油で汚れていた	
サンタフェ	2001年1月27日 ～1月31日まで	オイルスピル軽減	公園保護官3名 ボート エスバニョーラ号 ゴムボート1艘	油で汚れたアシカの洗浄 汚染地区のモニタリング	12頭の若いアシカを処置	
サンタフェ	2001年2月1日	オイルスピル軽減	公園保護官3名 ボート エスバニョーラ号 ゴムボート1艘	島の南東側に棲息スルウミ イグアナのコロニーをモニタ リングする サンタクルス島に帰還	油で汚れた動物はみつからなかった 油の影響については長期的にモニターする必要がある	

サンタクルス	2001年1月16日～ 2001年2月1日	座礁、後方支援、被災 資材、被害動物の処 置。 サンタクルス島 発の空中・海上モニタ リングをサンクリスト バル島、イサベラ島、 フロレアナ島、サンタ フェ島に向けて行った	船 五隻、乗組員 十二名、 公園保護官 四十名、 その他職 員 九名、 モニター・ボート四 隻、トラック 三台。 資材調達 10名、通信手段、55ガロンの 容器、シャベル、ゴム手袋、油 回収容器、網、ブイ、ゴム長靴、 マスク、鎧、乾電池、ミル ク、食料品、医薬品、吸収布、燃	船の乗組員、公園保護官、そ の他職員がチームを組み、イ サベラ、フロレアナ、サンク リストバル、サンタフェ、サン タクルスの各島に派遣され 無線、電話で必要な品々を運 送した 参加した船舶の類は緊急時の 間、ずっと稼働していた	依頼された資機材の購入と運搬 国内外のマスコミに被災行動の情報を提 供した プレス・リリース 計7回 諸島内の公園職員と常時、連絡を絶やさ
サンタクルス	2001年1月16日 ～ 1月29日	空中・海上モニターリ ングの検討、作業計画 作り	国立公園職員 2名、 CAPTURGAL から1名、 ダーウィン研から1名、 GPS、コンピュータ、VHF	空中・海上のモニターリ ングから得られた油汚染の広がり情 報を毎日地図に表現した それに従い、翌日の行動を計 画した サンタクルス、ブラサ、セイ モア、バルトロメ、サンチア ゴ、ピンソン、フロレアナ各 島の油汚れおよび被害の可能 性がある動物については観光 船がモニターした	船々と伝えられるモニターリ ング情報により汚染地図が絶えず書き換えられ、油回 収に役立った。 その他の島々の生物多様性の様子などに ついては観光船が情報を提供してくれた 民間団体もモニターリ ングや油回収に参画 した
サンタクルス	2001年1月23日 ～ 1月24日	アカデミア湾にバン カーが認められた トルトゥーガ湾にバン カーが認められた	国立公園職員 15名、ダー ウィン研 6名、ボランティア 15名、軽トラ 2台、船舶 5 隻 生徒、漁師、ボランティアの 人々、計250名が20隻の船、車 両3台、斧、袋、シャベル、バケ ツ、網罟を用いて海岸の油を除去 した	五隻の船に六班が分乗した。 グループはオイル・フェン スの挿付にあたり、もう一つ のグループは油の回収に当 り、油汚れを清掃した	55ガロン容器15個分のバンカーを回 収した。バンカーが湾に入らないよう、 6時間作業した。
フロレアナ	2001年1月26日～ 2001年1月29日	ロス・ペロスビーチと ラス・クエバスビーチ の間の入り江に油 があった	公園保護官20名 ボランティア 8名 民間船舶 2隻、公園の船3隻 手袋、つな釐、マスク、 55ガロン容器、車両2台	アシカ2頭を洗浄した	55ガロンの容器27個に油を回収、 湾の清掃 2羽のミズナギドリと3頭のアシカの死骸を発見
フロレアナ	2001年1月25日～ 2001年1月30日	島と周辺の小島の 海岸にオイルが 見られるか観察	漁船一般と公園保護官三名で 全ての海岸を捜索。油の漂着 ないしは被害動物があるかを 調べた	汚染区域を捜索し、被害 動物を捜した	油にまみれたペリカン一羽を捕獲 二日後に死亡した。 その後、新たな被害動物ならびに 油汚染の報告はない
イサベラ	2001年1月27日～ 2001年1月30日	バンカーオイルが島 の南岸に認められた ロカウニオン、プエ ルト・ビジャル湾 ラス・ティントーレス キンタ・プラヤ、他	漁民と漁船を雇い上げ、IFOの 回収にあたった。 使用した用具はバケツ、ブリキ 缶、プラスチック容器、網、手袋 その他	海岸から3マイル沖まで 綿密な捜索を行った	55ガロン入りの容器17個にバンカ ーオイルを回収した。
イサベラ	2001年1月28日～ 1月30日まで	汚れのモニターリ ングおよびプエルト・ビ ジャル近郊地区のモ ニターリ ング	ボート・グアダルベ号 雇い上げ漁船4隻 公園保護官 8名 ダーウィン研究所から1名	クアトロ・エルマーノスと カレタ・イグアナ間を綿密に 調査	28日以降はイサベラ島南側近辺 には新たな汚れが報告されていない